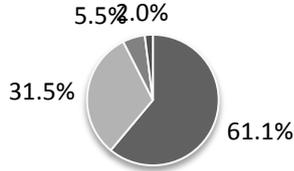




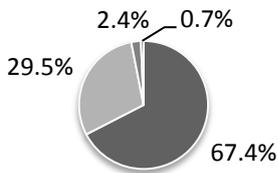
学校評価アンケート《児童アンケート》結果&コメント ※グラフはHPにも掲載中

1. わたしは学校がたのしい



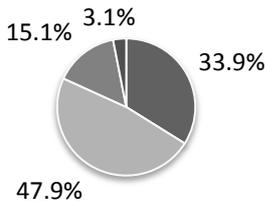
- 1. とてもそう思う
- 2. まあそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. 思わない

2. わたしは友だちとなかよくしている



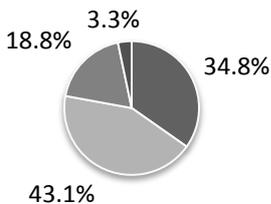
- 1. とてもそう思う
- 2. まあそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. 思わない

3. わたしは毎日のべんきょうがわかる



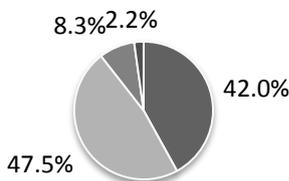
- 1. とてもそう思う
- 2. まあそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. 思わない

4. わたしはだれにでも気持ちのよいあいさつができる



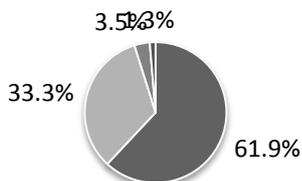
- 1. とてもそう思う
- 2. まあそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. 思わない

5. わたしはそうじをいっしょうけんめいしている



- 1. とてもそう思う
- 2. まあそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. 思わない

6. わたしは命の大切さや社会のきまりについて学んでいる



- 1. とてもそう思う
- 2. まあそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. 思わない

1. わたしは学校が楽しい

児童へのアンケートとして最初にくるのは当然である。集団生活や勉強などで、学校は様々なことで児童へ負荷をかけることが多いが、楽しくない理由は、やはり人間関係やクラスの様子、雰囲気の影響が大きいと考える。「思う」方が9割以上あることに安心するとともに、「思わない」方に回答した児童の気持ちにも留意したい。

2. わたしは友だちとなかよくしている

より高みを目指す意味から考えると、3. 1%の児童(「あまりそう思わない」と「思わない」)は、すばらしいとも言えるかもしれない。自分はしているつもりでも、はた目からはそうではないケースも見受けられるからである。そう考えると大人も同様であろう。と同時に、心がけている児童が多いことを喜びたい。

3. わたしは毎日のべんきょうがわかる

教師がそれぞれ立て板に水のごとく上手に説明するのを聞いているよりも、児童自身が目的をもって取り組む方が身につくのは当然である。ゆえに教師が主語の「授業」よりも、児童が主語の「学習」にウエイトを置く傾向を最近よく耳にするが、そんなに簡単なことではない。必要なツールやメソッドが備わればこそその学習であり、それらを教え授ける重要度はいつの時代でも変わらない。

4. わたしはだれにでも気持ちのよいあいさつができる

寒い日も暑い日も児童会のメンバーが早朝から挨拶を続けている。その当然のごとく普通のようにしている姿を見て、本当に頭が下がる思いである。月に一度、地域の人権委員会の方々があいさつ運動で来校され、見守り隊の方も児童とのふれあいをしていただいている。自身、学校や地域で保護者の方から先にあいさつをしてもらったことがあり、恥ずかしい思いをした経験もある。「だれにでも気持ちのよいあいさつ」は、声だけでなく表情や仕草までかわってくるので、簡単ではないと常々思っている次第である。

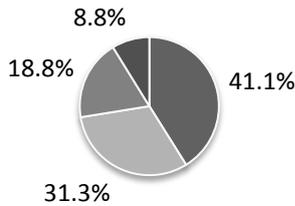
5. わたしはそうじをいっしょうけんめいしている

その学校が荒れているか否かを見るには、環境を見れば一目瞭然と聞く。児童が掃除をしているかどうかでなく、教師がそれにどれだけかかわっているかが観点になる。4年たって本校に赴任した際、廊下や階段がきれいなことに驚いた。子育てで長く休んでいた他の職員も同様であった。本校の教職員の意識を素直に感謝したい。

6. わたしは命の大切さや社会のきまりについて学んでいる

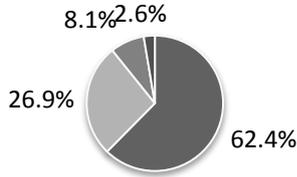
道徳性を育成するために、家庭には家庭の、学校には学校の役割がそれぞれあり、その価値観に違いがあるのは当然である。しかし、子供が心身ともに健康に生きていくという根幹の部分から逸脱している場合は、他機関や他の施設と連携・協力することが今は求められている。何れにしてもその判断・基準は、子供のことが中心になっているか否かと考える。

7. わたしはかぞくに学校でのできごとをよく話す



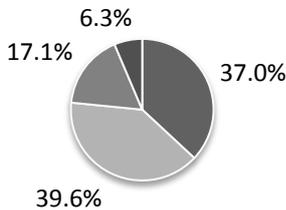
- 1. とてもそう思う
- 2. まあそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. 思わない

8. わたしは給食の時間がたのしみだ



- 1. とてもそう思う
- 2. まあそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. 思わない

9. わたしの学校は美しくととのっていてすごしやすかつかいやすい



- 1. とてもそう思う
- 2. まあそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. 思わない

7. わたしはかぞくに学校のできごとをよく話す

保護者から、仕事の関係で子供とあまり触れ合うことができないことを悩んでいる話を何度か聞いたことがある。常々思っていることだが、親子の心の交流は何も特別な場所や機会を設定すること（例えばどこかに出かけるとか）や、長時間一緒に過ごす必要もないと思っている。要は量より質の問題であり、大人が子供の話に耳を傾ける時間よりもその姿勢が大切ではないかと考える。それは家も学校も同様である。

8. わたしは給食の時間が楽しみだ

中庭にある給食室からは、調理している姿が見え、音が聞こえ、香りが漂ってくる。ゆえに児童は給食をより身近に感じていると考える。給食を残すことが許されない時代もあったが、最近はそれも随分と変わってきている。給食にはきまりがこと細かくあり、時間と予算に制約ある中、児童の要望との兼ね合いを考える難しさは当然ある。

9. わたしの学校は美しくととのっていてすごしやすかつかいやすい

去年より4ポイントアップ。南校舎のトイレの改修とエアコン設置が要因と考える。よって北校舎に教室がある児童の回答は、「思わない」方の割合が高い。トイレの改修は、市内の学校を順番にしていくなので、北校舎については未定である。項目5とも関係するが、教職員と児童がともに維持管理を粛々と続けられることが理想である。

《保護者アンケート》結果&コメントは次号にて